



アニュアルレポート中国 2007



The Japan Institute of Architects

a n n u a l r e p o r t

アニュアルレポート(支部活動報告書) 中国 2007

— 発行 —
平成 20 年 11 月

— 制作 —
社団法人日本建築家協会中国支部
〒730-0013 広島市中区八丁堀 5-23 オガワビル
TEL (082) 222-8810 / FAX (082) 222-8755
URL <http://www.jia-chugk.org>

— 表紙 —
株式会社松岡製作所(交流部会)
専務取締役 松岡 剛

— 印刷 —
(有) アウルズコーポレーション

a n n u a l r e p o r t

CONTENTS

| | |
|----------------------------|----|
| ■ 2007年度 中国支部事業 総括 | 1 |
| 支部長 村重 保則 | |
| ■ 地域会長発 | 2 |
| 「JIA環境再生フォーラム in 萩」 | |
| 山口地域会長 三村 夏彦 | |
| 「活動は会員益を基本に」 | |
| 岡山地域会長 藤田 佳篤 | |
| 「建築を視て分かること」 | |
| 島根地域会長 龜谷 清 | |
| 「支部に期待する」 | |
| 鳥取地域会長 杵村優一郎 | |
| ■ 第2回 中国支部大会 | 4 |
| 「JIA建築大会 岡山 2007」 | |
| 実行委員長 山田 暁 | |
| ■ JIAタウンミーティング防府2007 | 10 |
| ■ 第2回 福山文化セミナー | 11 |
| ■ 第2回 建築塾IN広島 | 11 |
| ■ JIA中国支部組織図 2006・2007年度 | 12 |
| ■ JIA中国支部会員リスト 2006・2007年度 | 12 |
| ■ JIA中国支部組織図 2008・2009年度 | 13 |
| ■ JIA中国支部会員リスト 2008・2009年度 | 13 |

2007年度 中国支部事業 総括



社団法人日本建築家協会中国支部長 村重保則

2007年6月の建築基準法改正施行は建築、建設業界に止まらず様々な分野に影響を及ぼし、経済の沈滞にも大きく響いている。そんな中、JIAは設立20周年という節目を迎え、また設立以来初の会長選挙を経て地域支部から新会長が選出された。地方からの声がこれからのJIA発展により一層反映されるよう願っている。

JIAが大きな目標とする登録建築家資格制度の問題はいまだオープン化に至らず、更なる整備が求められている。また、会費の値上げ等が絡む財政の問題、JIAとしてのコンプライアンスの定義付けの問題、公益法人化、UIA大会への協力等々いずれも早急な対応が必要な案件ばかりである。本部の運営方針として以下の5項目が掲げられている。

- 職能倫理の確立と社会システムに寄与する
- 建築家の責任と信頼の回復に努める
- 設計者の独立性と設計業務環境の改善に努める
- 財政再建への努力の継続
- 支部・地域会を意識しない、更なる自由で独自性のある事業への取組

この基本理念を踏まえたうえで、支部として以下のように目標を掲げ、遂行の努力をしてきた。それぞれに反省点、活動継続への課題等を述べてみよう。

1. 財政再建への取組… 事務局経費をはじめ、各事業経費の見直しなど削減努力を重ね、ある程度の成果が得られた。今後ますます財政は厳しくなっていく状況の中、引き続き検討しなければならない。
2. 組織の見直しと再編… 2007年11月の臨時総会で支部規定を改正し、組織の簡素化と実務体制を整えた。新体制での活動には皆さんの意見も取り入れより良い支部組織となるように努力していきたい。
3. 市民に開かれた広報活動の充実… ホームページのリニューアルから一年余、担当委員の皆さんのおかげで支部ホームページとしてなかなか見応えのあるものとなっている。会員以外の皆さんにJIAをもっと知っていただきたいとの思いで「支部長便り」のコーナーを設けている。
4. 会員拡大の推進… それぞれの地域会での努力が着実に会員数に現れている。現役で活動しておられる方、新しく

建築の道に進まれた方、新会員も様々であるが、より自由に意見が言え、自分と違ったタイプの人との交流を通じて、又自分を見つめなおすことができるような集まりにしたいと思っている。そして、他人と意見を戦わせながら、ひとつの目標を成し遂げる、そういった経験をしてほしいと願っている。えてして建築家には偏屈な人間が多いものだが、(特にこの歳になると) JIAの活動を通じて人とかかわることの楽しさを味わってもらいたい。

5. 登録建築家資格制度の推進… 2007年4月第1回目の登録建築家資格更新を実施し、オープン化へ向けて進みつつある。しかし、肝心な足元の整備が遅々としており、対象範囲の確定、コンプライアンスの明文化、事務局体制の基盤確立などへの対応が急がれる。

6. 「建築家大会」「建築家養成講座」事業の継続… 第2回 JIA中国支部「建築家大会 in 岡山 2007」は11月16,17日の2日間にわたって実施された。担当のそれぞれの会員が力を注いで盛大に大会を催すことができた。会を重ねるごとに反省点や次回へのアイデアが寄せられて、より良い大会内容となり、皆さんに楽しみにしてもらええるようになることを願っている。次回2008年度は山陰での開催である。

7. 保存・再生事業への積極的な取り組み… 支部として対応が不十分であったと反省するところである。次年度には新たに専門委員会も設置され、新局面が期待される。

8. 最新情報提供の講習会や研修視察ツアーの実施… 支部としての対応は充分といえなかった。ただ各地域会においては積極的な活動もみられる。講習会の開催についても更に意欲的に取り組みたい。

9. UIA東京大会への積極的な協力活動… 2008年6月開催のイタリア・トリノでのUIA大会に向けて支部主催のツアーを計画、参加を募った。

こうして書き綴ってみて改めて思うのは、どの事業を取り上げてみても、会員の協力の賜物だということです。一人声高に目標を掲げても周りの方々の協力なしには何も成し得ません。今後さらに会員相互の交流を活発にし、JIA活動の充実と推進に努めたいと思います。今後とも会員の皆様のご協力をよろしくお願いしたいと思います。

「JIA環境再生フォーラム in 萩」



山口地域会長 三村 夏彦

萩市は、国の重要伝統的建造物群保存地区（伝建地区）として武家町2ヶ所、商家町1ヶ所を有し、近々宿場町として萩往還の佐々並市が4ヶ所目として選定予定であり、江戸時代の地図がそのまま現在でも使える歴史のまちである。

平成10年の調査で旧萩市三角州内には、江戸期から戦前までに建てられた伝統的建造物が、1604棟も残っていた。しかし、国の景観法が施行された平成16年の再調査ではこれが1434棟となり、この6年間で170棟・約1割が消失した。

同年（平成16年）11月、堀内伝建地区内に、核となる萩市博物館の竣工にあわせ、江戸時代の地図がそのまま使える街として、萩まちじゅう博物館構想がスタートした。萩の文化遺産を再発見し、それらの散在するまちじゅうを、屋根のない博物館とみなし、市民・事業者・行政の連携協働による新たなまちづくりの展開をスタートさせた。

平成17年には、萩市は中四国地方で最初の景観行政団体となり、新しい景観計画の策定に着手をした。平成19年12月に萩市景観計画を施行し、県土の11%に及ぶ市域全域を景観計画区域に制定している。そして地域に応じ景観形成基準を設け、景観誘導を図っている。

又、本年10月からは「屋外広告物条例」を施行し、形態・意匠・規模等の基準を設け、市域全体を屋外広告物掲出の禁止又は許可地域としている。

しかし、景観法やそれに基づく条例は、規制措置を中心としており、文化財以外の歴史的な建造物の修復や、それらを活用した積極的なまちづくりへの公的支援措置がないといった限界があった。

そういうなかで、本年度全国の市町村を対象に、歴史的な資産を活用し、「歴史的風致」を後世に継承するまちづくりに対し、国が支援する新たな制度として、「歴史まちづくり法」が制定された。萩市としても、文化財や伝建地区以外の多くの歴史的建造物の修復に助成金のシステムが可能となる。又住宅地の規制のままで、歴史的な建造物を飲食店や工房等に活用できるようになる。

「活動は会員益を基本に」



岡山地域会長 藤田佳篤

今年度、岡山地域会の活動は会員益を基本に考えながら進めたいと思います。

会員である私達の毎日の仕事そのものが、まちづくりや社会的活動に継ながる事で日々が過ぎていきます。

時間のとれない状況で、この会に入っていて良かったなど思えることに重点をおいて取り組みたいと次の事業を計画しています。

- ・岡山文化セミナー
- ・よみがえらせたい岡山城の勉強会
- ・建築関係他団体との座談会 など

準備が大変でなく、実りの大きい活動を考えながら、会員増も目指して行きたいと考えています。

民間活力から昨年4月お成り道ができ、10月には「NPOお成り道ねっと」が立ち上がる。お成り道は毛利の殿様が参勤交代に使っていた重要な幹線である。この歴史的由緒あるルートは、昭和時代は萩市の中心商店街として、大変賑わっていたところである。現在空き店舗・空き家が急激に増え、通りは完全に様変わりした。このお成り道を歴史ある通りに再生しながら、中心商店街の活性化を図り、新たな萩観光のストリートとなるべく活動も始まった。

平成19年度には、年々減り続けていた観光客が初めて7%増加している。

これらの萩市のまちづくりのキーマン（行政・NPO法人・事業者等）の方々に参加していただき、思いを語っていただきます。そしてJIA会員の皆様方と共に考える「環境再生フォーラム」が来年3月13日・14日に萩の地で開催されます。

ふるってご参加下さいませ。

「建築を視て分かること」



島根地域会長 龜谷 清

私は60歳を過ぎたころフト、最近、建築を実際に見に行かなくなったことに気付き、これ良くないと思い出しました。それ以来勤めて気になる建築は実際にその建築が建っている現場に足を運ぶようにしています。

現代は私が若かった頃に比べ雑誌やその他建築に関するメディアは多様になり世界中の建築の情報が素早く手に入れることが可能になりました。そのためメディアを通し全てが分かったような気になり実際その建物が建っている場所まで足を運ばなくなったような気がします。それと年を取ってくるに従い足を運ぶことが億劫になりがちです。億劫がらず直ぐ行動に移す為には体力と気力を維持していくことが大事だと考え日々その様に勤めています。

建築空間を本当に視て分かるということに関して重要なことは当たり前のことですが「建築はある特定の環境の中で特定の大地に建っている」とい事実です。写真等で視られる状況はその写真を撮っている人の目と心を通して見た限定された情報でしかありません。それも二次元の世界に翻訳されアレンジされたものです。それでもって全てを分かるということは不可能だと思います。建築によって作り出される空間は三次元の世界であり時間の動きに伴い変化する四次元の世界でもあるのです。それは決して二次元に還元された情報からは得られるものではないではないでしょうか。ですから、その建築が建っているまさにその場所に足を運びその建築の建っている環境に身を置き空気を肌で感じながら時間の流れの中でその空間に入り歩き回りながら視ることで始めてその建築の作り出す空間を理解することが出来るのではないのでしょうか。ですから実際に建築の建つ場所に億劫がらずに足を運ぶことが絶対に必要だと思います。

会員（特に高齢会員）の皆さん、元気になるよう建築の建つその場所に足を運びましょう。そのために日々、運動をして体力を付けましょう。

「支部に期待する」



鳥取地域会長 杉村優一郎

2007年まで、私たち（鳥取県のJIA会員）は、「地域会」を名乗ることを、かたくなに拒んできた。

会という、何か組織だったあるまとまりがイメージされ、本意ではないが「鳥取建築家の会」と名乗ってきた。運営の便宜上やむを得ないである。

私たちはJIAの会員であることには誇りを持ちつつも、地域（鳥取県）内での活動には消極的だった。皆それぞれ他団体（士会、事務所協会）との掛け持ちで、それらの中で重要な役割を担っている。「とてもJIAまで手がまわらない」というのが本音だった。

しかし「だから目立った活動ができないのは仕方ない」と言ってしまうのは、代表をひきうけた者としてふがいない。何とかしなければと思いつつ4年が過ぎた。

何もなかったわけではない。集まっては議論をし、折に触れ杯を酌み交わした。そのことが徐々に緩いものを固いまとまりにしたのかとも思う。ようやく今年3月、地域会設立が提起され承認された。

今後は地域としての単独の活動が求められる。若い人の活力が必要となる。今年からJIA未入会の若手建築家と懇談する機会を持つことにし、7月には県西部の若手5人を米子に招集した。手応えはあった。私たちが彼らに言うことは、「岡山や広島や山口や島根には、あんな人やこんな人がいて、そんな人たちと親しくおつきあいができる。」など。地域にとどまらない活動や交流がセールスポイントとなる。

JIAは全国単一である点で他団体と一線を画すが、日常的活動の場としての日本はあまりに広い。中国5県の範囲がほど良く現実的だ。

JIAの理念を浸透させるには直接地域に働きかける方が手取り早い。と考える人もいるだろう。しかし会員はその目的を達成する為だけに所属しているわけではない。鳥取のような小さな地域にとって、支部の存在は掛け替えのないものとなっている。

**第二回 中国支部大会
JIA建築家大会岡山2007**

中国支部大会 実行委員長 山田 暁

JIA中国支部2007年度事業の一環として、「中国地方の豊かな文化創造と建築家の活動」をテーマに「JIA中国支部建築家大会IN岡山2007」と題し、支部大会が2007年11月16日(金)～11月17日(土)の2日間に渡り、岡山(中国電力株内山下電気ビル エネルギアホール)にて開催されました。

広島に続いて岡山の地で第2回目の開催となります。今大会の大きな目的として、JIA支部会員と地域社会との交流を図ること、また同時に、支部会員間の研修、親睦を図ることがあります。2日間に渡って、それらに重点を置いた多くのイベントが開催されました、会員各位のご努力です。

中国地方は、各県それぞれが風土に恵まれ、そこで育まれた様々な文化が今に受け継がれてきています。建築家として何を継承し、次世代に何を託すべきか、各セミナーを通して考えることが出来ました。

同時に今、建築設計業界が社会から、その責任を問われています。そんな中で、建築家としての心構えを再確認するとともに、我々の考えを一般市民に情報発信する必要があると、ワークショップを通じそれらの課題に取り組み、何らかのメッセージが発信できたのではと考えています。

この建築家大会に多くの皆さんの御参加を頂き感謝申し上げます。

■事業の主旨と概要

- 対 象: JIA中国支部会員、会員スタッフ、交流部会、岡山建築関係者、一般
- 会 場: 中国電力(株)内山下電気ビル エネルギアホール
- 日 程: 2007年11月16日(金)
2007年11月17日(土)
- 後 援: 岡山県/(社)岡山県建築士会/(社)岡山県建築士事務所協会/岡山建築設計クラブ
(社)日本建築学会中国支部岡山支所/
(社)日本建築積算協会中国四国支部
(社)日本建築構造技術者協会中国支部岡山地区

<第1日目>

■大会受付 (16日 12:00～)
中国電力うちさんげ電気ビル3階にて大会受付。

■大会開会式 (16日 13:00～)



(村重支部長開会の挨拶)



(山田岡山大会委員長の挨拶)



(御臨席をいただいた友好団体の皆様)

■基調講演 (16日 13:20～14:50)

JIA副会長国広ジョージ氏による基調講演、演題は「地域からリージョンへ」
建築・人・街・環境・都市・技術・生活。

広報委員会も経験された氏から地方の建築家へ向けて元気の出る熱いメッセージでした。



■ワークショップ (16日 15:00～16:30)

JIAと私たち建築家の抱える課題や問題、役割について、交流部会の方にも参加していただき36名が4つのテーブルに分かれて全員で考え、意見交換しました。

前半は旗揚げゲーム、後半が班ごとの討議、最後に各班より発表という流れで行われました。限られた時間内での作業でしたので班での討議も不十分で物足りないところもありましたが全員意見を出し合うという点で評価できるワークショップでした。以下ワークショップの内容を紹介します。

■旗揚げゲーム

- 問1. 皆さんの世代を伺います。
(回答) 「50代以降」が60%。
- 問2. ワークショップの体験がありますか。
(回答) 「体験あり」が40%。
- 問3. 地域でのJIAの活動が知られていますか。
(回答) 「知られている」が45%。
- 問4. 自分自身、日頃まちづくり活動に参加していますか。
(回答) 「参加している」が25%。
- 問5. 設計入札制度をどう思いますか。
(回答) 「問題有り」が80%。
- 問6. 公共建築の設計者選定はどの方法がよいでしょうか。
(回答) 「プロポーザル」が40%で最多、「入札方式」は2人。
- 問7. 登録建築家の制度についてどう思われますか。
(回答) 「社会に対して有効」が30%。
- 問8. 建築家の社会的地位は高いと思われますか。
(回答) 「高いと思う」が60%。
- 問9. 最近、建築家と称する人が多いと思われますか。
(回答) 「多いと思う」が20%。
- 問10. 建築家の職業は将来性があると思われますか。
(回答) 「あると思う」が40%。
- 問11. 自分の子供に建築家になって欲しいですか。
(回答) 「なって欲しい」が25%。
- 問12. JIAは地域の建築界の中でリーダーシップを発揮していると思えますか。
(回答) 「発揮している」が10%。
- 問13. 会費を安くして会員数を増やそうとしている現在の方針についてどう思われますか。
(回答) 「賛成」が50%。
- 問14. JIA地域会は収益事業を行っても構わないでしょうか。
(回答) 「行っても良い」が50%。

ワークショップ

1班 テーマ「建築家と地域の役割」

課題1 「地域への活動で大切だと思うこと」

(意見の概要) プロフェッショナルであることを自覚した日常の活動こそが本当地域貢献である。

課題2 「地域でJIAが認められるには

何をすべきでしょうか」

(意見の概要) 市民参加が出来る事業を行うとかJIAらしい新しい事業を創設する。

2班 テーマ「建築家としての倫理と行動力」

設計者選定方法について」

課題1 「設計入札についてどう思いますか」

(意見の概要) 設計入札自体より談合の存在に対する問題を指摘する意見もあった設計という行為を金額だけで決めるべきではないとの意見が圧倒的に多かった。

課題2 「どうすれば設計入札制度は

なくなると思えますか」

(意見の概要) 入札の選定方法の提案が2～3案あったが、「JIA会員として、全員入札には参加しないという行動が必要」との意見が圧倒的に多かった。

3班 テーマ「目指すべき建築家の将来像」

(意見の概要) 建築家憲章にある建築家としての資質と人間性を備え、社会的に活動する人。

4班 テーマ「JIAについて考える」

課題 現在JIAが会費を半額にして会員数の拡大に

動いていることについてどう思うか。

(意見の概要) 「数は力、組織として動くためには一定の数が必要。」という意見もあったが、「数の確保より先に会員の資質向上に努め、会の品格により会員を集めることを考えるべきである。」という意見のほうが多かった。特に交流部会の意見としてその傾向が強かったことに注目したい。



(ワークショップの様子)

■岡山のまち並み散策 (16日 17:30～18:30)

11月16日午後5時30分から約1時間で岡山のまち並みを散策しました。県外の会員が5名、県内が8名計13名で夜のまちに出かけました。周りが暗く、まち並みはほとんど見えない状態でした。

夜のまちの散策は、道中の「おいしい店」紹介に重点がかなり移ってしまった感があります。案内の赤澤さんが大変詳しく、岡山の会員も新情報として聞き入りました。

大会会場から出て、ルネスホール(旧日銀岡山支店)、オランダ通り、シンフォニーホール、オリエンタ美術館、UDほっとステーション、岡山県立美術館、天神プラザ、岡山カトリック教会、朝日新聞社岡山支社、旧ジッタ岡山店、岡ビル、西川緑道公園をご案内し、岡山の中心部のごく一部ですが散策を楽しみました。時間配分の制約で、暗いなか十分にご案内にならなかつたことが残念です。

写真はまちづくり推進機構岡山が運営受託しているUDほっとステーションでのまちづくりの取り組みの概要説明を聞いている状況です。(文責:大石)



<第2日目>

■文化交流セミナー (17日 9:30～)

佐藤正平 (佐藤建築事務所) 「旧日銀コンバージョン」

1922年(大正11年)古典主義の銀行を手がけた長野宇平治の設計による、旧日銀のコンバージョンを行った例。

重厚な外観をもち、都市景観のシンボルとして親しまれ、銀行として使用されてきた建物を、飲食も楽しめるコンサートホールとして再生させたものである。再生にあたっては、内部メインホールに設けられた4本のL字型鉄骨柱を主要素とする耐震補強がなされた。ここでは既存のデザインに同化させることなく印象的なデザインとして積極的に見せるとともに、スピーカー施設・空調ダクト・スポット照明の収まりスペースとして利用しており、それがデザイン的にも見事に成功している。さらに、ホワイエなどを増築し、外堀も取り除いて開かれた都市公園として整備しているが、銀行建築が新しい機能を持って生まれ変わった好例である。

2005年 第16回BELCA賞(ベストリフォーム部門)を受賞。今後、建築家としてこのようなリノベーションに対して積極的な取り組みが期待される。

よしもと正人氏 (彫刻家) 「万成石作品活動」

岡山市産出の万成石は県下だけに限らず、広く、優良な花崗岩として認識され活用されてきた。しかし近年安価な外国産出石の大量輸入により、資材としての存在価値が低下してきている。石はその加工技術も含め日本人の生活文化を支えてきたもののひとつであり、それを見つめ直す事は、現代求められている資源再利用の観点を踏まえ、生活上に新たな可能性を発見するための視点を提供の一助になると考えている。生活資材として万成石を見つめ直し、既存の有り様を越えた、文化資材としての「石」の価値を再発見する試みを行っている。

万成石を岡山の地域資産と捉え、文化・健康・リサイクルの観点から新たな活用法を考案し、実験や研究を通じて、生活に役立つ製品を生み出す。また、万成石に対する認識を高めるための広報活動を広く行う。これらの活動により、岡山の地域資産である万成石の文化・伝統の継承、地場産業の振興、地域の活性化を図ることを目的としている。

これまでの活動状況としては、2004年に開催した「第1回生活の中の石」展を発端に、万成石の各地における使用例の調査を行ない、また新たな活用法に向け、研究及び製品化の試作を行ってきた。2005年は、建築家や他素材を使用して創作をしている工芸家、また造園家などをメンバーに加え、多角的な視点から石の活用法を探る展覧会を開催した。また、岡山大学医学部に万成石の成分検査を依頼。花崗岩の持つ医療的効果の可能性を研究。小学生や保護者などを対象に石切場の見学や体験彫りなどを企画、地域の認識を深めていく活動も行っている。2007年には、地域の中学生を迎えての職業体験として、校庭に置く石のベンチの制作・設置を行ない、大変喜ばれた。

この活動は「岡山特産品」として万成石を位置づける方向性をもち、備前焼と並ぶ岡山の文化資材として万成石を捉えている。万成石に新たな解釈を加え生活の中に活かす試みは、岡山の産業としての新たな芽を含み、地域力の育成にも役立つと考えている。



山田孝延 (岡山県立大学デザイン学部教授)

「世紀転換期の建築デザイン」

「世紀転換期の建築デザイン」とは、20世紀末から21世紀初頭の建築デザインを指す。世紀末ではなく、世紀転換期を用いるのは、フランス語の世紀末 (Finde siecle) が末期であることによって“退廃”を含意しているが、ドイツ語の世紀転換期 (Jahrhundertwende) には世紀が変わることへのある種の新たな期待が含まれているとの筆者の思いからである。

5年前に、いまは亡き恩師篠原一男先生から、ある雑誌の連載企画の趣意書を受け取った。モダニズム建築が誕生した20世紀初頭と一世紀を経た21世紀初頭を同一位相としてとらえた時、20世紀末の世界の建築活動はモダニズムを中核として、19世紀ヨーロッパの都市と同じ位相の表情を備えたとして、住宅固有の問題あるいは都市空間との対峙という関係を焦点にして建築の問題を観察した言説空間をスケッチする“戦略ゲーム”への参加の要請であった。私は主として篠原先生の活動に即して建築と設計に関わる言説の関係を考察した論功をもって、そのゲームに加わった。

今回の分析は、篠原氏の問題提起に触発されて、この7年間実際に見学し、撮影した作品の中から、現在の世紀転換期に新しい建築のパラダイムが出現しつつあることに焦点をあて、その傾向を強く打ち出している作品を選んだものである。

1. 建築のメタレベル
2. コルビジェとコールハウス
3. マンハッタニズム
4. 作品解説
 - ・クンストハル (オランダ、ロッテルダム)
 - ・コングレクスボ (フランス、リール)
 - ・新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)
 - ・大社文化プレイス (島根県出雲市)
 - ・ビッグハート出雲 (島根県出雲市)
 - ・エデュカトリウム (オランダ、ユトレヒト)
 - ・VPRO 放送局本社 (オランダ、ヒルウェルスム)
 - ・WoZoCos 100住戸の集合住宅 (オランダ、アムステルダム)
 - ・横浜国際旅客船ターミナル (神奈川県横浜)
 - ・仙台メディアテーク (宮城県仙台市)
 - ・熊野古道なかへち美術館 (和歌山県田辺市)
 - ・金沢21世紀美術館 (石川県金沢市)

以上の分析された内容を説明してもらった。



(交流文化セミナー会場の様子)

■デザインフォーラム (17日 13:30~15:30)

第1回大会 (広島) で好評だったデザインフォーラムを岡山でも実施。



榎村徹氏 (岡山地域会会員) の進行により、はじめに藤本寿徳 (広島地域会会員) より2作品のプレゼンテーションが行われ、その作品の考えに各コメンテーターから様々な意見や質問がくり出され、それに対して藤本会員が自分の考えを答えてゆくというやりとりがくり返し続きます。

コメンテーターとプレゼンテーターのやりとりに会場も一体となって熱心に聞き入っていました。

次に岸本泰三 (岡山地域会会員) から次の作品のプレゼンテーションが行われ、同じようにコメンテーターとの意見のやりとりが行われた。



コメンテーターとしてJIA次期会長となられた出江寛氏、地元から倉森台氏 (名誉会員・元中国支部長)、広島地域会から細見恵氏、そして村重保則氏 (中国支部長) の以上4人の方をお願いした。



(デザインフォーラム会場の様子)

■閉会セレモニー (17日 15:30~)

16日、17日と2日間、延べ200人弱の参加をいただき、第2回大会は無事終了した。皆様方のご支援、ご協力に感謝申し上げます。尚、第3回大会は、山陰 (島根・鳥取合同) で開催予定となった。



JIAタウンミーティング防府2007

山口地域会 久保紳哉

山口地域会が2001年から下関、岩国、萩、山口、宇部と県内各地を巡ってきたタウンミーティング。今回が一応の区切りとして選んだのが歴史の地「防府」である。

門前町としての商業集積時代を経て、大型スーパー出店による中心市街地の空洞化現象が進行中といった現状である。近年行われた防府駅前再開発ビル計画を通して、関り続ける人とそこに住む人々の現在を訪ねることにした。

□第1日目(平成20年2月22日)

まずは、街づくりに魅せられて13年も駅周辺の開発に携わってこられた防府市都市計画課の金子氏から再開発に至るまでの紆余曲折の経緯を伺う。



(金子氏による講演の様子)

続いて、当時の再開発組合理事長であった藤本氏から講演をいただく。八百屋業を営みながら、現在はまちづくり会社の代表取締役も務める、文字通りこの地のキーマンとも言える存在の主である。



(藤本氏による講演の様子)

広島を始め、岡山や鳥取、島根からも会員の方々、また多くの交流部会員、一般参加の建築設計事務所や建設会社からも参加を得て、会場は講演者の熱い話に聞き入ってしまった。

「まちを造るのは 商業ではなく、そこに人が住むこと、文化があること。」と言い切るのは、当初からこの計画に関り続けた本人だから言える言葉だ。「何人も要らない。一人真剣にやる人間がいれば 街は動き出す。」聞いていた我々も、改めて真剣に思いを込めて事に当たる重要性を認識したところである。

講演の後、我が地域会の田中氏がコーディネーターとして加わり、三人でのパネルディスカッションに移った。

やりとりをするうちに次第に短期間で今回の再開発を評価するのではなく、現在の地価の上げ止まり現象やホテルとマンション建設ブーム、そして中心市街地へ住みたい人が増えている等々、明るい兆しが現れ始めていることに触れ、じっくり時間をかけて街を育てていきたいとの思いが伝わってきた。この二人が会った意義は防府にとって、これからはかけがえのないものとなる予感がした。建築家として街づくりにどう関るべきかとても参考になった。



(パネルディスカッションの様子)

□第2日目(平成20年2月23日) エクスカーション

前日の講演の余韻を残し、駅前再開発ビルに集まり、商店街や歴史建造物を歩いて探訪した。寒い日でもあった。



(エクスカーションで訪れた周防国分寺)

第2回福山建築文化セミナー

広島地域会 後藤正貴

2007年11月15日(木)福山市のふくやま美術館において開催された。



(セミナーの様子)

講師に建築家藤本士介氏を迎え、「Primitive Future」というテーマで、氏の設計に対する持論に基づいた近年の作品や進行中のプロジェクトの紹介を通じて、原初的で新しい未来の建築への試みが紹介された。会場には学生からベテランまで幅広い層が詰めかけ定員を大きく上回る150人の聴講者の熱気に包まれた。



(藤本士介氏)

秩序や距離感を巧みにコントロールし無作為性を感じさせる論理に、世代を問わず引き込まれ、活発な質疑も交わされた。



(活発な質疑)

第2回建築塾IN広島

広島地域会 堤 敏明

中国支部事業の一環として「第2回建築家塾」を広島にて開催する運びとなりました。

昨年度は「第1回建築家養成講座」と題し、同じく広島にて開催しましたが、参加のしやすい双方向性のあるディスカッション形式をメインとし、名称を「建築家塾」と改めて開催しました。

「第2回建築家塾」は、社会に出て間もない建築設計事務所に勤務する若い年代の方を対象とし、どのカリキュラムに参加するかは自由としました。それぞれ実践で役に立つ様々な話題をテーマとして取り上げ、ディスカッション形式で講義を行いました。

講師との意見交換はもちろん、参加者同士との情報交換を行いながら、お互いの交流を深めることのできる場となれば幸いです。

さらに、開催するスタッフ(JIA会員)にとってもより有益な場とすることで、今後の継続的な開催を可能にします。

改正建築基準法の講習会

平成19年12月7日(金)建築サロンにて「建築塾in広島」としては第1回目の講座を開催した。

「姉歯」事件を発端とした6月20日の建築基準法の改正以来、半年が経過した現在も建築界の混乱はなかなか収まりそうもありません。

国土交通省も11月14日には、施行規則の一部を改正し「新しい建築確認手続きの要点」を示し手続きの迅速化を図ろうとしています。

今回はできるだけ実務に即した内容の講習会とするため講師には確認を審査する立場の日本ERI株式会社広島支店の石木確認部次長にお願いし、運用面での改善点や制度上で明確になった部分などを解説していただいた。

確認の迅速化にはほど遠い内容の法改正の現実を知らされ愕然とする思いであった反面、審査をする立場の苦悩も会間みられ確認業務に携わる我々としては考えさせられる会となった。

質疑応答では、日々の業務に関わる議題でもあり、活発な意見の交換が行われた。

2007年度においては1回のみ開催となってしまいましたが、本事業は来年度以降も継続的な開催を予定しており、今後は岡山・島根・鳥取・山口においても開催する予定です。